

## シグマ研究委員会核データ専門部会会合議事録

日 時 昭和49年2月21日 ( ) 13.30～

場 所 勤燃事業団本部第九会議室

出席者 大竹, 松延, 神田, 中村, 八谷, 川合, 村田, 浅見(明), 山越, 川本, 吉田, 坂島, 真木, 中峽(オブザーバー), 五十嵐(以上東京地区)。後藤, 坂本, 西村, 大野, 中川, 五十嵐(以上東海地区)。

議事に先立って, 「旅費の払底のため, 東京地区と東海地区に分けて会合を開くことになった。」旨の説明があった。東海地区は25日に開く予定。

### 議 事

#### 1. 各 W.G. の経過報告

##### (イ) 評価 W.G. (松延, 浅見)

U-235, U-238, Pu-239, Pu-240, Pu-241のsmooth part の評価作業は3月1杯で終了する。U-238についてはすでに作業を完了している。中重核の作業は各担当者がデータ収集を行っており, Fe については評価を行なっている。共鳴パラメータ収集グループは3月末までに収集したパラメータを表にまとめてレポートを作る予定。

##### (ロ) FFP W.G. (坂島)

重安28核種の評価を終了しレポートの作成を行っていたが, 炉定数側からのコメントと, ボローニアでの報告などから我々の値が少し大き目であるので検討しなおしている。特に50 keV前後で大きい核種が多い。一方, オランダのベッテンで測った大型炉心のスペクトルを使った Integral test との比較では cook やオランダの結果よりも我々の値の方が測定値に近く良い結果を与えている。

##### (ハ) 核データ検索システム W.G. (五十嵐)

測定データと評価ずみデータとを重ね合せてプロットするプログラム SPLINT を作り、これを使って各メンバーが担当核種の断面積をプロットし検討した。

## 2. JENDL

JAERI FAST SET のもとになっているマイクロデータを収納する JENDL-0 は3月一杯で完成する予定である。49年度は JENDL-1 の作業にかかるが、シグマ委員会と原研との協力関係を強化し、JENDL-1 の作成を推進する体制を原研物理部では考えている、との報告があり、これをめぐって討論が交された。しかし事態はまだ不確定要素が多く、専門部会としてどのように対処して行くかは今後の推移を見なければ分らないので、とりあえず従来の方針に沿って49年度計画を立てておくことにした。

## 3. 49年度計画

### (イ) 評価 W.G.

JENDL-1 との関係は最も強くなる W.G. になると思われるので、体制のいかんによっては W.G. でなくなるかも知れない。しかし一応の案としては共鳴パラメータの評価、中重核の評価を進めること、非分離共鳴領域の評価を行なう必要があることが考えられる。又、核融合炉用核データを取り上げる時期でもあり、そのための計算コードを整備して行く必要があることなどが議論になった。

JENDL-1 との関連においては JENDL の編集方針を決めることが先決で、それによって評価の方法もはっきりしてくるのではないか、又、評価をより良く行なうためには Standard cross section の評価は是非採り上げて行く問題であることなどが指摘された。これと同時に評価の方法論の確立を考えて行く必要があることも指摘された。

### (ロ) FFP 評価 W.G.

28核種の完成をすませ、更に28核種以外の核種の評価を行なっていく。その際、odd核だけでなく、even核の寄与も考える必要があること、パラメータの系統性をおさえておく必要があることなどが指摘された。

(イ) 核データ検索 W.G.

SPLINTを使って各メンバーが担当核種のプロットを行ない、5月末頃までに結果をまとめることになっている。

新たなシステム作りとして考えられることは3次元プロット・データの現状表示、グラフィックディスプレイの利用などがある。又、COMFORDの活用、NESTOR indexの作成が件案になっており、この作業を具体化することなどの報告があった。

(ロ) 熱中性子散乱 W.G.

熱中性子散乱関係の文献収集を続けて行くが、各メンバーの事情もあって、やり方を検討してみる必要がある。しかし、この種の作業をやる場としては委員会が適しているので、その方向で考えたい。又、熱中性子散乱データの評価も個々には行なっており、その結果の検討、批判などもW.G.でやって行きたいとの報告があった。

軽水、重水の散乱データの評価を終了したのでレポートにすると共にJENDLの内容としても提出したい。

4. その他

- Decay Heat 問題検討小委からの打診として、fission yield data と cross section について取り上げることを検討して欲しいとの申し入れがあったことが報告されたが、初め燃料計量核データ専門部会に申し入れを行ない、検討中なので、その結果を待つことになった。
- JENDL-1 作成体制について議論が集中し、囑託制と契約制の関係について多くの意見が出されたが、一律に行なうことは実情に沿わないことが強調された。又、編集について経験者の話を聞きたいとの希望が出された。

- INDC, EANDC委員に会議の報告をしてもらうよう要請があった。内容的には評価に関連した報告をまとめてやってもらうこと。
- 本委員会の leader ship を望むかどうかについて提案があり、筋としては leader ship を望むがあまり狭く考えられるのは困るとの意見が多かった。
- 46, 47年度2年報について本委員の名前きり掲載しないのは片手落であり、執筆を専門部会員に依頼しておきながら名前をのせていない例がある。との強い不満が表明された。
- 17回 EANDC に出席する Sowerby 氏が原研に来て評価を行なっている人達と話をしたいとってきている。日時は3月30日である。関係者に協力して欲しいとのアナウンスがあった。

## 5. 人 事

小畑氏がやめる。飯泉氏が辞意をもらしているので確認する。中挾氏，成田氏を加える。

以上を本委員会で承認してもらう。